

今こそ考えよう



宮城県南三陸町志津川地区



宮城県南三陸町防災対策庁舎

“命”を守る防災

職員の見た被災地

蒲郡市では愛知県緊急消防援助隊として消防士を派遣したのをはじめ、看護師や職員を被災地支援に派遣しています。その中で見た、被災地の現状を報告します。

■宮城県本吉郡南三陸町

蒲郡市は、東三河の市町村と協同で宮城県南三陸町へ4月18日から継続して職員を派遣しています。

現地ではホームページの更新作業や避難所での物資配給などを行っています。沿岸部はもちろん山のふもとまで津波の被害が見受けられ、住宅は基礎部分か鉄骨しか残っていない状況でした。

月日が経つにつれ学校の再開や、仮設住宅の建築など復旧復興へ進んでいる様子が派遣した職員から報告されるようになっていきます。

しかし、仮設住宅へ入居した後の生活や漁業などの産業の復興など問題は山積しています。メディアの報道が少なくなればだんだんと忘れられてしまう恐れもあります。長い目で復旧復興への支援が必要です。

■宮城県石巻市、女川町

4月2日から6日まで日本財団が行った遺族・親族に対する弔慰金、見舞金の支給活動に2人の職員を派遣し、市長も参加しました。

いずれの被災地でも同じですが、被災者に対応している市や町の職員自身も被災者という状況であり、かなり疲弊している様子でした。支給を受け取りに来られる方も家族の中で自分だけ生き残ったとそこで涙を流す方など震災の悲惨な現状を目の当たりにしました。街の復旧復興だけでなく、被災者の状況にあった心のケアが必要だと感じました。



宮城県女川町